

P3-0877

岡山県理学療法士会と福祉機器フェスティバルが繋ぐ障がいを持つ子どもと家族の生活

羽原 史恭, 荒尾 賢, 國安 勝司

一般社団法人岡山県理学療法士会

key words 理学療法士・福祉機器・子ども

【目的】岡山県理学療法士会（以下、本会）は昭和 42 年に活動を始め、現在では会員数 1750 名の団体となった。平成 24 年には一般社団法人となり、国民の健康に寄与するための努力を重ねている。本会は会長、副会長のもと事務局、学術局、社会局で構成されている。特に社会局は県民と本会を繋ぐ重要な役割を担っている。平成 24 年に社会局が主導し、平成 26 年度には 3 回目を迎えた「福祉機器フェスティバル」を振り返り、本会のあり方を考える。【活動報告】近年各地で子どもを対象にした福祉機器展示会が開催されている。岡山では本会の主催で「第 1 回子どもの福祉機器展示会」を平成 24 年に開催した。準備と運営は社会局と県内の理学療法士が行った。初めての展示会で企業の展示は 28 社で家族、医療職、教師など 302 名が訪れた。平成 25 年 11 月 4 日には第 2 回を開催した。この回から名称を「大人も子どもも来て見られえ 福祉機器フェスティバル in 岡山」とした。平成 26 年 9 月には第 3 回を開催し、市の後援を受けた。広い公的施設を借りることができ来場者数は 380 名を超えた。また企業展示ではないが、びわこ学園の「SPIDER」と電動移動遊具には多くの家族が訪れた。【考察】家族からは車椅子、ポジショニング用具、福祉車両などに実際に触れて、試すことができ満足したという声が多かった。また「SPIDER」や電動移動遊具で遊ぶ場面では、子どもの楽しそうな顔と家族のこぼれるような笑顔が印象的で、子どもたちの QOL を高めるためにも、企業の協力を得て電動移動遊具の開発を進める必要があると感じた。【結論】障がいを持ちながら岡山で生活をする子どもたちとその家族にとって、「福祉機器フェスティバル」は、様々な福祉機器を直接見て、試すことができる重要な機会である。これからも福祉機器を提供する企業と家族の間を繋ぐ「福祉機器フェスティバル」であるように本会としても努力していきたい。